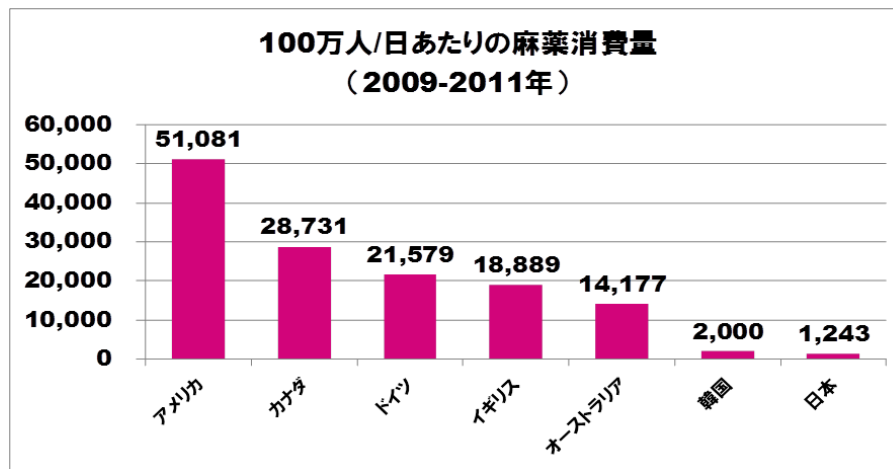


医療用麻薬のお話 ①

— モルヒネって怖い薬じゃないのですか？ —

がんにかかると、さまざまな「苦痛」が患者さんを襲います。この「苦痛」特に「痛み」に対する医療用麻薬について、2回にわたりお話をしたいと思います。

日本人には「武士道」という考え方があり、「我慢することが美德」と思っている方が少なくないようです。私たちが日常の診療で経験することの中でも、外国人の方は大げさに「痛み」を訴えるのに対し、日本人、なかでもご高齢の方はこちらから痛みに対してお尋ねしない限りは、「痛い」とおっしゃらない方が多いようです。また、「痛い」と感じていらっしやっても、鎮痛剤を要求することが潔いと思われたい方が少なくありません。特にそれが医療用麻薬(モルヒネ等)となると、使用することに罪悪感や恐怖心をお持ちの方もいらっしやいます。



(緩和研修会テキストより)

上記グラフは、先進国の医療用麻薬の消費量を示しております。アメリカなどと異なり、日本ではがん性疼痛(がんが原因で発生する疼痛)と一部の難治性疼痛に対してのみしか医療用麻薬の投与が認められておりませんが、それにしても欧米先進国との差は歴然としています。

私たち医師が、がん性疼痛で苦しんでいらっしやる方に医療用麻薬のお話をすると、様々な不安をうかがいます。

- ✚ 麻薬を使うってことは、私は末期なのですか？
- ✚ 麻薬を使うと、命が短くなるのではないですか？
- ✚ 麻薬を使うと、中毒になりませんか？
- ✚ 麻薬を使うと、頭がおかしくなるのではないですか？

等々・・・これは全部誤解です！

麻薬は有史以来、人類が最も古くから使用している薬の一つなのです。世間で言われている「大麻」や「覚醒剤」と同一視されている方が多いようですが、医療用麻薬は一流の製薬会社が開発製作し、厚生省が認可している安全な薬剤なのです。

医療用麻薬の説明をする前に、痛みの性状と分類についてお示します。

一言で「痛み」と言っても、上記のようにいろいろな種類の痛みがあり、鎮痛剤もそれぞれ得意分野と、それほど得意ではない分野があります。

皆さんが普段良く経験する「歯痛」や「傷の痛み」(体性痛)などは、通常の鎮痛剤が良く効きますが、がん性疼痛に多い内臓痛には比較的効き目が弱いとされています。

一方医療用麻薬は、一般の鎮痛剤が弱いとされている内臓痛にも良く効くお薬なのです。私たち緩和の医師は、それぞれの長所を生かし、短所を補うように処方を工夫しています。

痛みの症状と分類

侵害受容性疼痛	内臓痛	腹部腫瘍の痛みなど、局在があいまいで鈍い痛み ズーンと重い	医療用麻薬が効きやすい
	体性痛	骨折、歯痛など、局在がはっきりした明確な痛み ズキッとする	通常の鎮痛剤が効きやすい
神経障害性疼痛		びりびり電気が走るような、しびれる じんじんする痛み	難治性で鎮痛補助薬を必要とすることが多い

今回はここまで、次回は医療用麻薬について、もう少し詳しいお話をさせていただきたいと思います。

【呼吸器外科診療部長・緩和ケアチーム 山部 克己】

